



ユーザーマニュアル

EasyLift V3 PLUS

ユーザーマニュアル- EASYLIFT V3 PLUS - JP 版 03.03

OBSOLETE-NO



内容

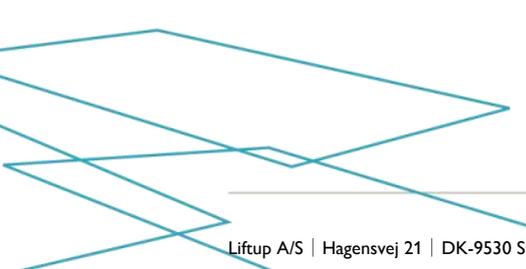
1. 序文	4
2. EU 適合宣言	5
3. 機器のラベリング	6
4. 工場出荷時の受入検査 (FAT)	7
5. 使用条件	8
6. 技術仕様	9
7. 安全上の注意	12
7.1 設置とメンテナンス	12
7.2 予期しないリフトの動き	12
7.3 リフトの動き	12
7.4 人身事故を避けるために	12
7.5 リフトの過負荷	12
7.6 人体の安全	13
7.7 破損防止	13
7.8 安全バリア	14
7.9 取り扱いについて	15
7.10 緊急時のドアロック解除	16
7.11 一般の人がアクセス出来るリフトの設置 (デンマークのみ)	17
8. 機能について	17
9. 組み立て	18
10. スタートアップ	18
11. リフトの操作	19
11.1 日常の使用	19
11.2 上側からのリフト操作	20
11.3 下側からのリフト操作	20
11.4 プラットフォーム上でのリフト操作	20
11.5 緊急停止	20
11.6 オン/オフスイッチ	21
11.7 音声アラーム	22
11.8 緊急通報装置 (オプション機器)	23
12. 操作方法	24
12.1 バッテリーバックアップ	24
12.2 緊急停止/電源遮断後の校正	24
13. メンテナンス	25
14. 送信機と受信機のペアリング方法	27



14.1 リモコンと受信機 2.4GHz.....	27
14.2 ワイヤレスコールステーションと受信機 2.4 GHz.....	29
14.3 リモコンと受信機 868MHz (一部の国のみ)	30
14.4 ワイヤレスコールステーション及び受信機 868MHz (一部の国のみ)	31
15. 設置と引き渡し	32
16. メンテナンスチェックリスト.....	33
17. オンラインサービスログ (デンマークのみ)	35
18. スペアパーツとアクセサリ.....	36
19. 解体.....	39
20. 廃棄.....	39
21. 苦情を申し立てる権利	39

2021 年 3 月

OBSOLETE - NOT UPDATED



1. 序文

この度は、EasyLift リフティングプラットフォームをご購入いただき、誠にありがとうございます。
 ございます。

本製品は、EasyLift V3 PLUS のオリジナルユーザーマニュアルです。以下では、特に断りのない限り、EasyLift V3 PLUS に対して EasyLift という用語を使用します。



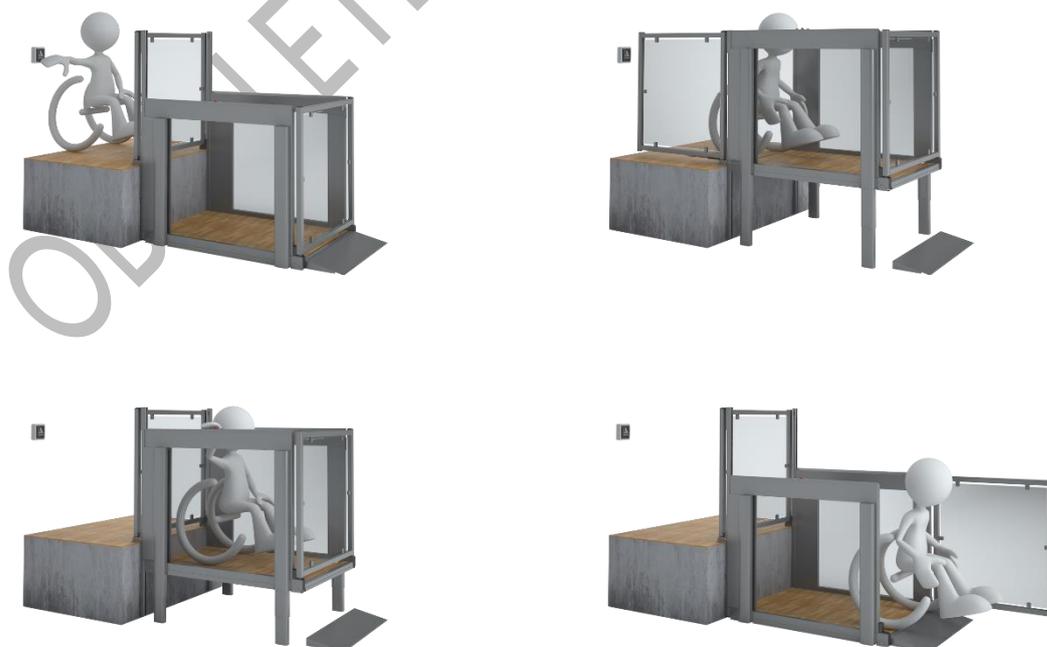
リフトをご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

設定と設置は、適切な設置を保証するために、Liftup 社のトレーニングを受けたサービス技術者が行う必要があります。不適切な組み立ては、予期せぬ危険や人身事故につながります。

EasyLift は、車いす使用者や歩行困難者が 2 つの階層間を簡単かつエレガントに行き来出来る車いす用リフトです。

リフトの操作は、壁に設置された操作パネルやオプションのリモコンで簡単に行うことが出来ます。

本使用者マニュアルでは、「EasyLift リフティングプラットフォーム」を「リフト」と表記しています。





2. EU 適合宣言



製造者 : Liftup A/S
 住所 : Hagensvej 21, DK-9530 Støvring
 電話 : +45 9686 3020

ここに宣言します :

リフト : **EasyLift V3 PLUS**
 車椅子の方や運動機能が低下した方のためのリフティングプラットフォーム

年 : 2019

機械に関する指令 2006/42/EC、Machinery Directive の基本的な健康と安全の要件に準拠しています。

また、この機器は以下に準拠しています。

EMC 指令 : 2014/30/EU
 RoHS 指令 : 2011/65/EU

評価では、例えば以下の関連部分を使用 :

DS/EN60204 機器の安全性 - 機器の電気機器
 DS/EN 13849-1 及び -2 制御システムの安全関連部品

マネージングディレクター/CEO

役職名

Søren Elisiussen

名前

Liftup A/S, Hagensvej 21, DK-9530 Støvring, デンマーク

所在地

2019 年 9 月 2 日

日付

署名



3. 機器のラベリング

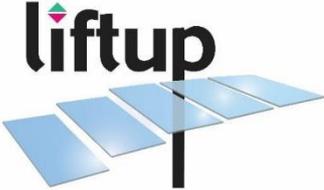
次のコピーを挿入します。
CE 認証マークはこちら

OBSOLETE - NOT UPDATED





4. 工場出荷時の受入検査 (FAT)




FACTORY ACCEPTANCE TEST

Certificate

is hereby issued to
(insert product type)

with serial no.
(insert serial number)

To certify that all safety tests, performance tests and other tests specified by our certified ISO 9001:2015 Quality Management System have been successfully passed and documented.

Issue date

Test responsible



Liftup A/S | Hagensvej 21 | DK-9530 Støvring | Denmark
 T +45 96 86 30 20 | M support@liftup.dk
 www.liftup.dk | CVR DK-1015 3964





5. 使用条件

このリフトは、車いす使用者または移動能力の低い人のみが使用することを意図しています。最大荷重は、リフトに均等に配分された **400 Kg** で、最大 **2** 名です。



ご使用になる前に、このユーザーマニュアルをよくお読みください。



重要! リフトを荷物の運搬に使用したり、荷物の入ったパレットやその他の重い荷物をリフトに載せたりしないでください。



リフトの所有者は、メンテナンス指示書（セクション **13** 参照）に従って、リフトをメンテナンスする義務があります。



電池や電気・電子機器を分別されていない家庭ゴミと一緒に廃棄しないでください。本機を廃棄する際は、地域の条例や規則に従ってください。

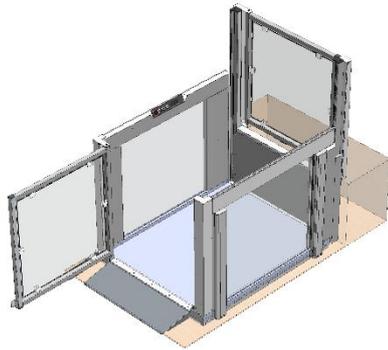


Max 400 kg
Max 880 lbs

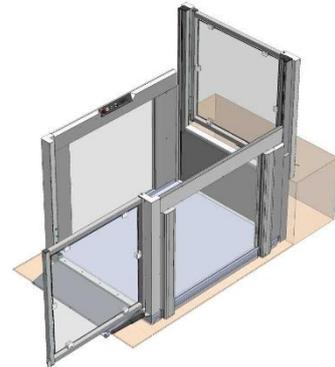
最大荷重は **400 kg**、または最大 **2** 名までがプラットフォーム上で均等に分散して使用出来ます。

リフトが一般に公開されている場合、所有者の責任として、法律の規定に従って適切な間隔で検査が行われ、必要な安全装置が用意されていることを確認してください。

6. 技術仕様



EasyLift 800/900 V3 PLUS



EasyLift 1100 V3 PLUS

技術仕様：

電源： 110 - 240 V/50 Hz (1.1A) 最大：90 W, スタンバイ時 <6 W

昇降能力： 400kg または 2 名様

リフトアップの高さ： 0~1.250 mm

プラットフォームのサイズ：

内寸： 幅 800/900/1.100 mm

長さ 1.400 mm

外形寸法： 800/900 PLUS 幅 960/1.060 mm

長さ 1.750 mm

1100 PLUS 幅 1.260 mm

長さ 1.820 mm

自重： 約 250 Kg (EasyLift 800/900 PLUS)

約 250 Kg (EasyLift 1100 PLUS)

騒音レベル： <70dB

水と埃： >50V : IP67 (電源) / <50V : IP23/<10V : IPxx

吊り上げ速度/温度：

	° C	mm/秒
	+40 °C - +5 °C :	40mm
	+5 °C - -5 °C :	20 mm
	-5 °C - -20 °C :	10 mm
最大 200 Kg/440 ポンド	-20 °C - -25 °C :	10 mm

承認： 機械指令 2006/42/EC

動作サイクル： 2 分/5 分

バッテリー容量： 30 サイクル 25°C

放電したバッテリー： 10 分 充電=1 サイクル

フル充電=5 時間



全ての無線部品は、以下の規格に準拠しています：

EU	2014/53/EU、無線機器及び機器指令 (RED)
FCC (USA)	CFR 47 パート 15
DS/EN 62479 : 2010	電子及び電気低電力機器の電磁界 (10 MHz~300 GHz) への個人的な曝露に関する基本的な制限への準拠の評価
DS/EN 300 440、v2.1.1	短距離機器 (SRD) ; 1GHz~40GHz の周波数帯で使用される無線機器 (電磁両立性及び電波スペクトル事項ドラフト)
DS/EN 301489-1、v2.2.0	無線機器及びサービスの電磁両立性 (EMC) 規格。
DS/EN301489-17、v3.2.0	ドラフト (電磁両立性及び無線スペクトル事項ドラフト) 電磁両立性 (EMC) 及び電波スペクトルの問題 (電磁両立性及び電波スペクトルの問題)
AS/NZS 4268	無線機器及びシステム-短距離機器
AS/NZS 2772.2	無線周波数フィールド (平均電力 <1 mW)

モジュール 1：

2.4 GHz の短距離機器：

FCC ID : 2AK8H-モジュール 1

受信機クラス 3

寸法 (長さ x 幅 x 高さ) : 72 x 33 x 10mm

重量 : 10 g

周波数 : 2.410GHz 2.435GHz 及び 2.460GHz

デューティサイクル : <1% (TX はリモートペアリング時のみ)

電源 : < 0.6mW 制御された環境

電源 : 5.6V 30mA

水と埃 : IP XX (Liftup 製品内に設置する必要があります)

周囲温度 : 5°C ~ +40°C / 41°F ~ +104°F

保存温度 : -25°C ~ +70°C / 13°F ~ 158°F

平均寿命 : >5 年以上

ハンディー リモコン 1:

2.4 GHz 帯の近距離無線機器：

FCC ID : 2AK8H-リモコン 1

受信機クラス 3

寸法 (長さ x 幅 x 高さ) : 96 x 47 x 24mm

重量 : 48 g

周波数 : 2.410GHz 2.435GHz 及び 2.460GHz

デューティサイクル : <1%

電源 : <0.6mW 制御された環境、「デッドマン」操作

バッテリー : 3V の CR2032

水と埃 : IP 42

周囲温度 : +5°C から +40°C

保存温度 : -25°C ~ +70°C

平均寿命 : >5 年以上

**壁掛けリモコン 2 :**

2.4GHZ の短距離機器 :

FCC ID : 2AK8H-リモコン 2

受信機クラス 3

寸法 (長さ x 幅 x 高さ) : 80 x 64 x 33mm

重量 : 75g (0.17 ポンド)。

周波数 : 2.410GHz 2.435GHz 及び 2.460GHz

デューティサイクル : <1%

電源 : <0.6mW 制御された環境、「デッドマン」操作

バッテリー : 3V の CR2032

水と埃 : IP 42

周囲温度 : +5°C から +40°C

保存温度 : -25°C ~ +70°C

平均寿命 : >5 年以上

技術的な修正が必要です。

OBSOLETE - NOT UPDATED



7. 安全上の注意

7.1 設置とメンテナンス

リフトの設置やメンテナンスを自分で行わないでください。この作業は必ず認定*サービス技術者が行ってください。

保護板や安全板を取り外さないでください。リフトで人身事故を起こす恐れがあります。

*Liftup 社の製品・サービスコースを修了している人

7.2 予期しないリフトの動き

リフトの使用中に、本マニュアルに記載されていない動作や動きが発生した場合は、リフトを停止し、技術支援を求めてください。

お使いのリフトがプラットフォームとして平らに動かない場合は、プラットフォームを床面レベルまで下げて校正する必要があります。それでも問題が解決しない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

7.3 リフトの動き

リフトの下の自由空間には、下降を妨げるような物がないようにしてください。そうしないと、下の階に移動することが出来ないため、車椅子用のリフトとして使用できません。

リフトの下降を妨げる物体がある場合、リフトは動作を停止し、アラーム音を発し（セクション 11.7 参照）、自動的に 2~3cm 上に移動して物体を取り除けるようになります。その後、アイテム/物体を取り外すことが出来ます。リフトが再び使用出来るようになるには、そのアイテムや物体を取り除く必要があります。

7.4 人身事故を避けるために

挟み込み、切断、落下、つまずきなど、人身事故の危険がある場合は、リフトを使用しないでください。使用者/運転者は、人や物を危険にさらすことなくリフトを移動出来ることを確認することが重要です。

小さな子供やお年寄り、体の不自由な方が階段やプラットフォームの上や近くにいるときは、特に注意してください。これらのグループは、階段やプラットフォームの動きによって起こりうる結果を予測出来ない場合があるからです。

7.5 リフトの過負荷

過負荷時の材料の損傷を防ぐために（最大 400 Kg（均等配分）の場合、リフトには過負荷保護装置が装備されており、過負荷が発生した場合には、リフトを停止させ、音声アラームを作動させます（セクション 11.7 参照）。過負荷の場合は、リフトを下げて降りてください。

7.6 人体の安全

このリフトには、使用者や他の人がリフトを使用する際に怪我をしないように、様々な安全装置が装備されています。



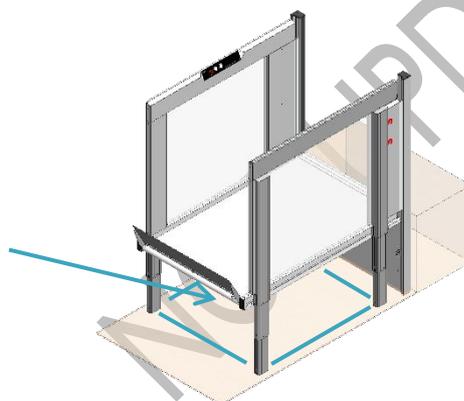
警告! リフトには様々な安全装置が装備されていますが、周囲に人や動物がいる場合には、押しつぶされる危険性があるため、使用しないでください。子供をリフトで遊ばせないでください。

7.7 破損防止

リフト全体の下には何枚ものプレッシャープレート（挟み込み防止装置）が取り付けられており、万が一、何か挟み込まれると作動するようになっています。セーフティーキャッチが作動すると、リフトは停止し、約 **2cm** 後退し、アラーム音が鳴ります

クランプ保護

保護ゾーン



(セクション 11.7 参照)。

セーフティーキャッチが作動した場合は、操作ボタンを離してください。リフトの下にあった物が取り除かれ、再び床面に降りることが出来ます。必要に応じて、リフトの下から物を取り出しやすくするために、少し上昇させてください)。



重要! リフトを屋外に設置する場合、木の葉や枝、雪などがクランプの保護に影響することがありますのでご注意ください。そのため、定期的にリフトが降りるときに塞がれていないか確認する必要があります。

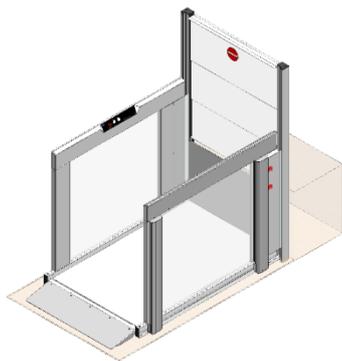
屋外に設置する場合は、リフトの下に不要なものが入らないようにするため、使用後はリフトを下げることをお勧めします。

7.8 安全バリア

7.8.1 転落防止装置としてのランプ

リフトにスロープが付いている場合は、リフトが動き出す前にスロープが傾いてロックされます。このスロープは、出口の安全装置として機能しています。

リフトが完全に下降すると、タラップは自動的に傾いて上下方向のタラップとして機能します。



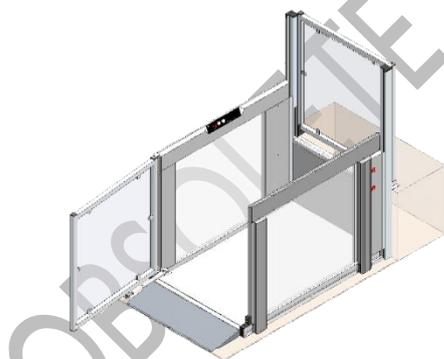
アップ/ダウン用ランプ



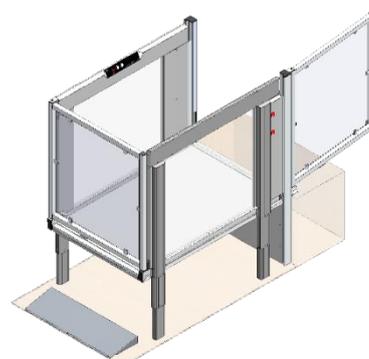
転落防止装置としてのランプ

7.8.2 転落防止装置としてのドア

リフトにドアが付いている場合は、リフトが動き出す前にドアが閉じてロックされます。エレベーターが下の階から離れているときは、必ずドアが閉じられてロックされます。

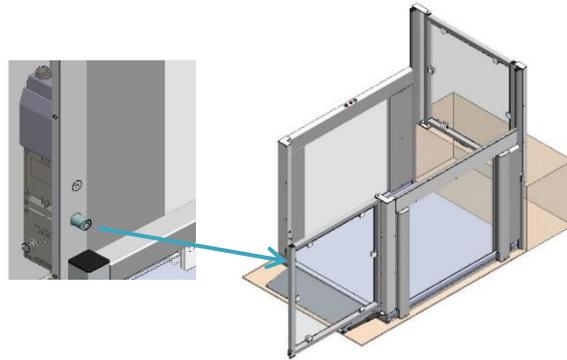


下段



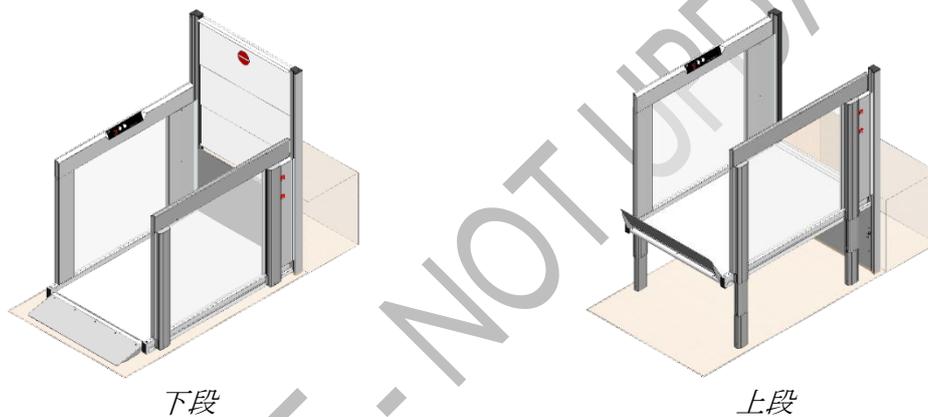
上段

リフトにドアが取り付けられている場合は、自動ドアロックを取り付けることができます（EasyLift 1100 にのみ取り付け可能です）。自動ドアロックは、リフトが動き出す前にドアを確実にロックします。



7.8.3 安全バリア

上段にオプションの安全柵が付いている場合は、リフトが動き出す前に安全柵を閉じます。リフトが上層階から離れているときは、安全柵は常に閉じられ、ロックされます。リフトが下の階から離れているときは、ランプが上がっています。



7.9 取り扱いについて

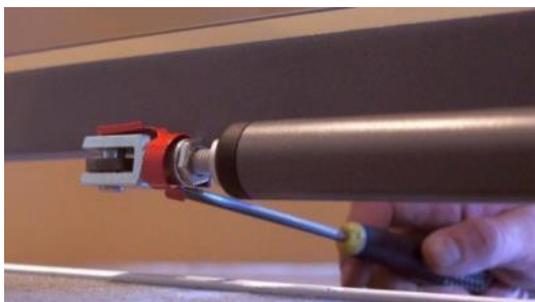
リフトは通常、販売店が配送し、設置も行っています。人身事故の原因となりますので、手でリフトを移動させないでください。リフトの移動や取り扱いには、適切なリフティング機器（パレットジャッキ、ローラープレートなど）を使用してください。

リフトの機能を損なう恐れがあるため、強い衝撃や衝突を与えないでください。

リモコン（オプション）は、乾燥した場所に保管し、投げつけるなどの激しい衝撃を与えないようにしてください。クリーニングは固く絞った布でのみ行ってください。

7.10 緊急時のドアロック解除

緊急時や故障の際：スプリングボルトを外す。



1. ドライバー、定規、栓抜きなどの適切な道具を使って、スプリングをスピンドルシャフトから引き抜きます。



2. 外側から、下側にアプローチします。



3. スプリングを外します。



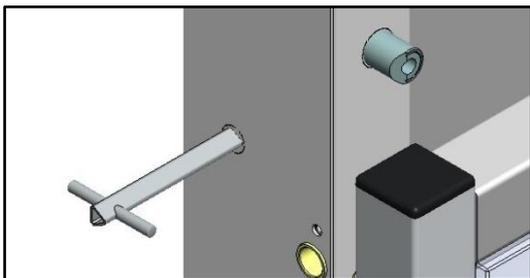
4. スプリングが抜けたらボルトを引き抜きます。

注意！

ドアのアクチュエーターに圧力がかかっているため、ボルトを引き抜くのが難しい場合があります。



5. これでドアは自由に開けられるようになります。



6. 自動ドアロックが装備されている場合は、三角キーでロックを解除します（自動ドアロックは EasyLift 1100 のドアのみ）。

故障を修理した後は、以下の手順を逆に行うことで、ドアを再接続することが出来ます。

7.11 一般の人がアクセス出来るリフトの設置（デンマークのみ）

一般の人が利用出来るリフトの場合は、通常、使用していないときにロック出来るようにキースイッチが取り付けられていなければなりません。

人が意図せずにリフトに閉じ込められることを防ぐためには、（通常の方法で）アクセス出来ないようにリフトをロックすることができなければなりません。キースイッチは、リフトのいかなる操作も出来ないようにすること。しかし、リフトは進行中の動きを完了するので、リフトに人が閉じ込められることはありません。

リフトが無人または無施錠であっても、所有者（またはその代理人）が付近/建物内にいる場合は、援助を求めるための警報信号を備えている必要があります。

リフトに警報信号が装備されている場合は、この信号を外部の警報装置（光、音など）に接続し、リフトでの介助が必要であることを知らせること。警報信号が十分でない方法でリフトが設置されている場合（例：監視なしで自由にアクセス出来る）、双方向通信を設置する必要があります。

リフトに双方向通信装置が設置されている場合は、この装置が常時（リフトが利用可能な時）応答可能な電話番号に接続されている必要があります。

8. 機能について

このリフトは、いわゆる「デッドマン」リフトで、移動中は押しボタンを押し続けなければなりません。

このリフトは、利用者が壁に設置された押しボタンまたは対応するリモコン（オプション）でリフトを呼び出すことで、簡単に機能します。

リフトに乗ったら、利用者は側面のパネルからリフトを操作し、上層階か下層階かを選択します。



9. 組み立て

リフトの設置は、正規の*サービス技術者が行います。

リフトの移動、取り外し、修理は行わないでください。この作業は必ず認定*サービス技術者が行ってください。

誤った取り付けをすると、使用者の安全性が損なわれる恐れがあります。Liftup 社は、組立及び設置が認定されたサービス技術者によって行われなかった場合、いかなる責任も負いません。

設置に関する詳しい情報や資料については、販売店にお問い合わせください。
<https://www.liftup.dk/en/distributors/>。



デンマークでは、労働環境庁が 2016 年 6 月 30 日より、リフトやリフト製品などの所有者/使用者を対象とした新しいルールを導入しました。2016 年 5 月 23 日の AT BEK 461)。これは、予防的な保守点検の回数や、製品の法定設置点検にも影響します。これらの検査の質を確保するために、Liftup 社はオンラインサービスログを開発・実施しており、全てのリフト製品で利用可能です。今後は、全ての点検・検査をこのログに記録する必要があります（機器のオンラインサービスログについては、17 章を参照）。

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

10. スタートアップ

リフトは必ず 110~240V の電源に接続し、スイッチを入れてください。通常、リフトは常に "スタンバイモード" になっており、操作ボタンを押すとすぐに使用可能な状態になります。

緊急停止が押された場合は、リフトを使用する前に緊急停止を解除する必要があります（詳細は操作方法のセクション 11 を参照）。

11. リフトの操作

11.1 日常の使用

EasyLiftは2つのコントロールパネルで操作出来ます：標準（図1-4）、FUGA（図5）、またはキー操作によるコールステーション（図6）をそれぞれ上段と下段に設置し、リフトの押しボタン（図9）またはリモコン（オプション）（図8）で操作します。リモコンは、2つのコントロールパネルの代わりになります。

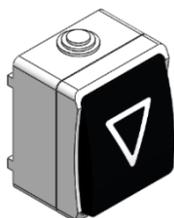


図 1:
ケーブル付きの標準的なコールステーション。
1方向

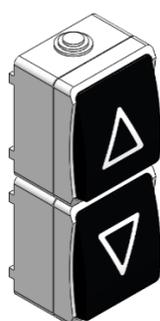


図 2:
ケーブル付きの標準的なコールステーション。
2方向



図 3:
標準的なコールステーション、ワイヤレス。
1方向



図 4:
標準的なコールステーション、ワイヤレス。
2方向



図 5:
FUGA
1方向または2方向



図 6:
キー操作による

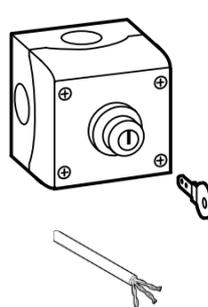


図 7:
キースイッチのオン/オフ



図 8:
リモコン (オプション)



図 9: リフトのプッシュボタン (他のモデルについてはセクション 11.8 を参照)



11.2 上側からのリフト操作

リフトを上階に呼び出すには、上階にある操作パネル（図 1~6）、またはリモコン（オプション）の「上矢印」（↑）（図 8）を、リフトが完全に上昇して停止するまで押します。バリアが下がるか、ドアが全開になると、リフトへの搭乗が可能になります。

11.3 下側からのリフト操作

リフトを下段に呼び出すには、下段に設置されている操作パネル（図 1-6）、またはリモコン（オプション）の「下矢印」（↓）（図 8）を、リフトが完全に下降して停止するまで押します。バリアが下がるか、ドアが全開になると、リフトへの搭乗が可能になります。

11.4 プラットフォーム上でのリフト操作

リフトには 3 つのボタンが取り付けられており（図 9）、1 つは「上向き矢印」（△）、1 つは「下向き矢印」（▽）、そして「緊急停止」（●）となっています。



リフトに乗っていて、上の階に持っていきたいときは、「矢印上」ボタンを押します。タラップまたはドアが閉まり、リフトが上昇を開始します。ボタンは、リフトが希望のレベルに達して停止し、バリア/ドアが完全に開くまで保持されます。これでリフトを降りることが出来ます。



リフトに乗っていて、最下段に持っていきたいときは、「下矢印」ボタンを押します。バリアやドアが閉まり、リフトが降り始める。ボタンは、リフトが最下段に到達して停止し、ランプ/ドアが全開になるまで押し続けます。これでリフトを降りることが出来ます。

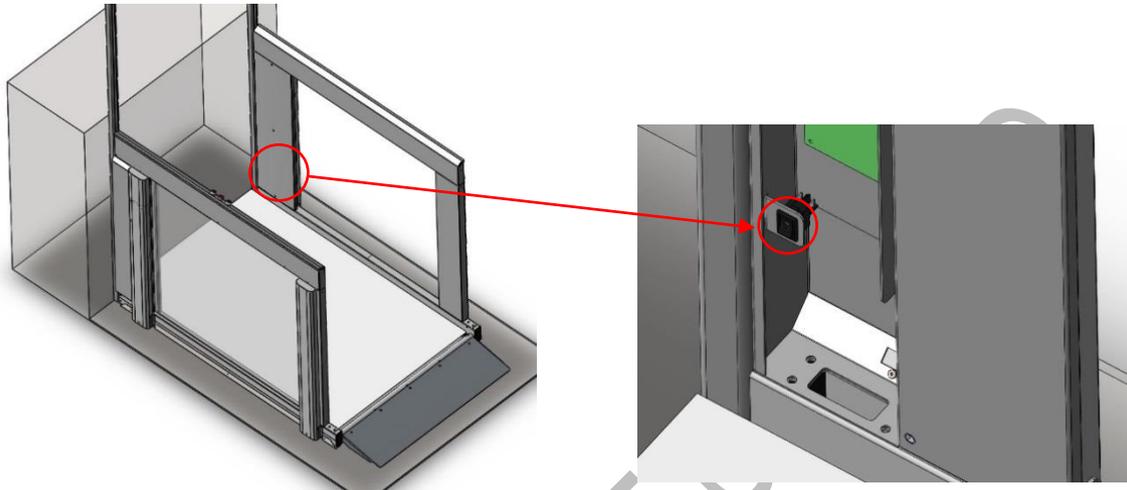
11.5 緊急停止



リフトが意図せずに動いてしまった場合や、危険な状態を回避するためにリフトを停止しなければならない場合は、「緊急停止」を押してください。エマージェンシーストップを解除するには、ノブを時計回りに回すと、システムが使用可能になります。

11.6 オン/オフスイッチ

リフトにはオン/オフスイッチが付いています。リフトの右下に設置されています。スイッチにアクセスするには、カバーを取り外す必要があります。このボタンはリフトの電源を切るためのものです。使用者がこのスイッチを切り、同時に非常停止を作動させると、リフトの電源が遮断されます。



充電器のオン/オフスイッチは、点検時などに使用します。リフトの電源は、オン/オフスイッチと緊急停止（セクション 12.1 参照）を作動させることにより、オフ/オンされます。充電器の電源が再投入されると（緊急停止が解除されると）、制御が再開されます（セクション 12.2 参照）。電池を壊さないように、通常は常にオンにしておきます。



警告! オン/オフスイッチはバッテリーチャージャー用です。メインスイッチではありません。長時間オフのままにしておくと、電池の消耗や破損の原因になります。長時間の停電時には、電池が完全に消耗しないように、緊急停止を作動させる必要があります。



11.8 緊急通報装置（オプション機器）

リフトには警報ボタン（△）を設置することが出来ます。アラームボタンの接続方法は2通りあります。

1. アラームボタンには、外部アラームを接続することが出来ます。アラームを作動させるには、アラームボタンを約5秒間長押しします（接続されているシステムによって異なります）。



2. アラームボタンはコールシステムに接続することができ、緊急時には外部の支援者に連絡することが出来ます。アラームを作動させるには、アラームボタンを約5秒間長押しします。



インカムシステムの操作方法については、こちらの **Safeline** マニュアルをご覧ください：

Safeline MX3: <https://www.safeline-group.com/en/qg/mx3>



12. 操作方法

通常の使用状態では、リフトは常に 110~240V に接続されていなければなりません。長時間（10~20 時間）の電源遮断は、バッテリーの故障やそれに伴う動作不良を引き起こす可能性があるため、電源を遮断したり、電源を切ったりしないことが非常に重要です。バッテリーを充電しないとリフトは使用できません。停電時には警報音が鳴ります（セクション 11.7 参照）。

12.1 バッテリーバックアップ

停電（110-240V）やその他の理由でコントロールへの電源が遮断された場合、コントロールは自動的にバックアップモードに切り替わります。つまり、バッテリーバックアップに代わって、システムが正常に動作することになります。停電時には、ピープ音による警報音が鳴ります（セクション 11.7 参照）。電源を再投入すると、すぐにアラームは停止します。これでシステムは通常の動作に戻ります。

すぐに電源を入れ直すことができず、アラーム音を止めたい場合は、緊急停止ボタンを押してください。（その後、システムのキャリブレーションを行う必要があります、セクション 12.2 参照）。



重要！ 電源が接続されていない状態で、緊急停止ボタンを押さないと、電池が放電してしまいます。長時間の停電時には、電池が完全に放電して損傷するのを防ぐために、緊急停止を作動させる必要があります。



重要！ 電源の切断と緊急停止の作動・解除が同時に行われた場合、システムは自動的に「安全モード」に切り替わり、校正が必要になります（下記参照）。

12.2 緊急停止/電源遮断後の校正

非常停止が作動して電源が遮断された場合や、システムが何らかの異常を検知した場合には、校正を行う必要があります。リフトは特別な安全モード（校正モード）に入り、全てのアクチュエーターが 0 の位置（床面）になるまでは、非常に低い速度でしか下降できなくなります。



重要！ 期待通りの動作をしない、数センチで止まってしまうなどの現象が見られる場合は、技術的な問題が発生している可能性がありますので、技術者による修理が必要です。お手数ですが、販売店にお問い合わせください。



13. メンテナンス

中性洗剤を混ぜた水を使い、よく絞った布でリフトを拭いてください。



重要！ホースを使った高圧噴射や直接のすすぎ洗いはしないでください。刺激の強い洗浄剤などをリフトに使用しないでください。また、冬季のメンテナンス時には、リフトに塩や砂が付着しないようにしてください。

リフトの下に落ち葉や枝などがいないか定期的を確認し、リフトが自由に動くように取り除いてください。

リフトのメンテナンスは正規のサービス技術者が行う定期点検の一環としてのみ実施してください。この作業は、正規のサービス技術者*が行ってください。万一、意図しない動作不良や誤解が生じた場合は、直ちに販売店に連絡して修正してもらってください。

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

リモコン

オプションのリモコンには、**CR2032** 電池 1 個が入っています。



リモコンの機能を維持するためには、**2 年ごとに電池を交換**してください。



ボタン電池を飲み込まないように注意してください。飲み込む危険性があるため、電池を口に入れないようにしてください。



電池は小さなお子様の手の届かないところに置いてください。子供が電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に連絡してください。



電池を分別されていない家庭ゴミと一緒に廃棄しないでください。廃棄の際は、地域の規則に従ってください。

手持ちのリモコンの電池を交換する：

1. リモコン背面のネジ（Torx TX 6）を緩める
2. バックパネルの取り外し
3. 電池の交換
4. バックパネルの取り付けとリモコンのテスト



壁掛け式リモコンの電池を交換する：

1. 黒い押しボタンの前面を外し、灰色の部分の後部にある 2 つのネジ（PH1）を緩めます。グレーの部分の背面には、電池を搭載した回路基板があります
2. 電池を交換します
3. 全てを逆の手順で組み立て直し、リモコンのテストを行います



長期間リモコンや受信機の電源が入っていない場合は、システムのキャリブレーション（2つのユニットのペアリング）が必要になることがあります、セクション 14 を参照してください。

14. 送信機と受信機のペアリング方法

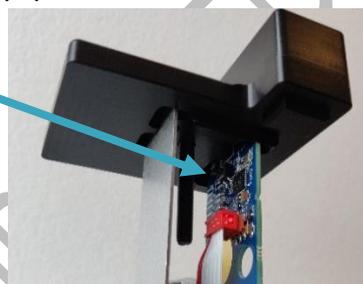
14.1 リモコンと受信機 2.4GHz

送信機と受信機は常にペアリングされていないと動作しません。この作業は通常、工場または認定*サービス技術者が行います。受信機がペアリングされていないと、送信機には反応しません。1台の受信機には、最大 20 台の送信機を組み合わせることが出来ます。1台の送信機は、必要に応じて複数の受信機とペアリングすることが出来ます。

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

送信機と受信機をペアリングするには次のようにします：：

1. 2.4 GHz 受信機の S4 にアクセスするには、上部のネジを緩めて、モジュール1をウォールプロファイルの上部から引き上げます。
2. 受信機の S4 を短く押すと、インジケータランプがゆっくりと点滅し始めます。受信機は2分間、設置モードになります。
3. リモコンの「上矢印」(↑)と「下矢印」(↓)ボタンを同時に押して、リモコンのインジケータランプがゆっくり点滅し始めるまで、約5秒間押し続けます。リモコンが設置モードになってから2分間。黄色い点滅になるはずですが(赤い点滅の場合は、受信機と一致しない 868MHz のモデルです)。



別の方法：

リモコンが開いている場合は接続 (S4) を押します。

4. リモコンのインジケータランプの点滅が止まれば、リフトとのペアリングが完了します。
5. システムをテストして、ペアリングが正しく行われていることを確認します。正しく行われていない場合は、上記 1-4 を繰り返します。複数のリモコンをペアリングする必要がある場合は、上記のステップ 2 から繰り返します。



送信機と受信機をリセットするには：

リモコンをリセットしてペアリングしないようにするには、以下の手順で行います：

送信機のリセット：

アップ (↑) キーとダウン (↓) キーを同時に約 5 秒間押して、リモコンのインジケータランプがゆっくりと点滅し始めたら OK です。リモコンが設置モードになってから 2 分間。この 2 分間の間に、以下のシーケンスを実行する必要があります：

次のように押します：アップ (↑)、アップ (↑)、ダウン (↓)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)。

成功すると、LED が 10 回素早く点滅します。

別の方法：

リモコンが開いている場合は、リセット (S5) を押します。



システムをテストして、リセットが正しく実行されたことと、リモコンがペアリングされなくなったことを確認します。そうでない場合は、上記のステップ 1~3 を繰り返します。

受信機のリセット：

1. 受信機の S4 を 10 秒以上押す。
2. 表示灯が高速で 10 回点滅し始めると、受信機がリセットされます。



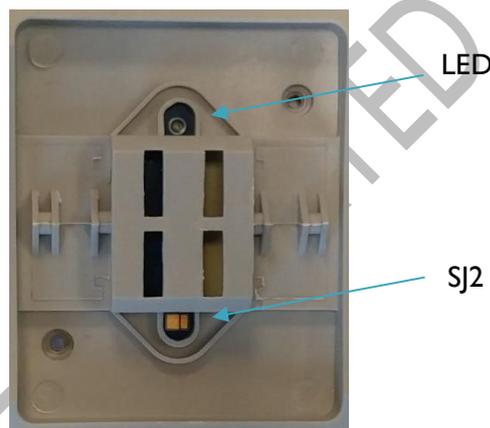
14.2 ワイヤレスコールステーションと受信機 2.4 GHz

送信機と受信機は常にペアリングされていないと動作しません。この作業は通常、工場または認定*サービス技術者が行います。ペアリングされていない送信機には、受信機は反応しません。1 台の受信機には、最大 20 台の送信機を組み合わせることが出来ます。必要に応じて、1 台の送信機と複数の受信機をペアリングすることが出来ます。

送信機と受信機をペアリングするには次のようにします：

1. 受信機の S4 にアクセスするには、上部のネジを緩めて、受信機の「モジュール 1」をウォールプロファイルの上部から引き上げます（セクション 14.1 参照）。

2. フロントタングを外し、小型ドライバで SJ2 を短時間ショートさせると、リモコンのインジケータランプがゆっくり点滅し始めます。装着されていない場合は、同じ機能を持つ S4 ボタンを短く押してください）。



3. リモコンが設置モードになってから 2 分間。
4. ここで、受信機の S4 をインジケータランプがゆっくり点滅し始めるまで押します。受信機が設置モードになります。
5. リモコンの LED の点滅が止まれば、リフトの受信機とのペアリングが完了します。
6. システムをテストして、ペアリングが正しく行われていることを確認してください。
7. 複数のリモコンを受信機とペアリングする必要がある場合は、上記のステップ 2 から繰り返します。

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

送信機をリセットするには：

コールステーションをリセットして、リフトとのペアリングができなくなるようにするには、以下のようにします：

1. 送信機の S4 を 10 秒以上押す。
2. LED が急速に点滅し始めると、受信機がリセットされます。

受信機をリセットするには

1. 受信機の S4 を 10 秒以上押す（セクション 14.1 の写真を参照）。
2. LED が急速に点滅し始めると、受信機がリセットされます

14.3 リモコンと受信機 868MHz (一部の国のみ)

送信機と受信機は常にペアリングされていないと動作しません。受信機がペアリングされていないと、送信機には反応しません。1 台の受信機には、最大 20 台の送信機を組み合わせることが出来ます。1 台の送信機は、必要に応じて複数の受信機とペアリングすることが出来ます。

受信機のスイッチが入ると (セクション 11.6 参照)、接続ボックスの RF ステータスが 2 分間点滅します。または、送信機とペアリングするまで行います。

1. システムの電源が入っていることを確認してください。
緊急停止を押して、リフト側面のオン/オフスイッチをオフにしてください (セクション 11.6 参照)。
2. リモコンで、アップ (↑) とダウン (↓) を同時に押し、リモコンの表示ランプがゆっくり点滅し始めるまで約 5 秒間押し続けます。リモコンが設置モードになってから 2 分間。赤色の点滅になるはずですが (黄色の点滅の場合は、受信機と一致しない 2.4GHz のモデルです)。
3. 2 分以内に機械の赤い緊急停止ボタンがノブを回すと再び解除されます。
4. リモコンのコントロール LED の点滅が止まれば、本機との接続が完了します。
5. システムをテストして、ペアリングが正しく完了していることを確認してください。
複数のリモコンを受信機にペアリングする場合は、手順 2 を繰り返します。
6. リフトの側面にあるオン/オフスイッチをオンにします。



送信機と受信機をリセットするには

リモコンをリセットしてペアリングしないようにするには、以下の手順で行います：

アップ (↑) とダウン (↓) を同時に押し、リモコンの表示ランプがゆっくり点滅し始めるまで、約 5 秒間押し続けます。

リモコンが設置モードになってから 2 分間。

この 2 分間の間に、以下のシーケンスを実行する必要があります：

次のように押します：アップ (↑)、アップ (↑)、ダウン (↓)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)、アップ (↑)、ダウン (↓)。

受信機をリセットするには

受信機の電源が入っている必要があります。

コネクションボックス PCB の JP1-1 をショートさせてください。

コントロール LED が急速に点滅し始めると、受信機がリセットされます。

コントロール LED が素早く点滅しない場合は、受信機がペアリングされていないことを意味します。



14.4 ワイヤレスコールステーション及び受信機 868MHz (一部の国のみ)

送信機と受信機は常にペアリングされていないと動作しません。受信機がペアリングされていないと、送信機には反応しません。1台の受信機には、最大 20 台の送信機を組み合わせることが出来ます。1台の送信機は、必要に応じて複数の受信機とペアリングすることが出来ます。受信機の電源を入れると（セクション 11.6 参照）、接続ボックスの「RF Status」が 2 分間点滅します。または、送信機とペアリングするまで行いません。

1. システムの電源が入っていることを確認してください。緊急停止を押して、リフト側面の オン/オフ スイッチをオフにしてください（セクション 11.6 参照）。
2. 壁に取り付けられた遠隔操作のコールステーション：ディップスイッチ S4,2 をオンにしてスイッチを押すか、金属物で（↑）または（↓）をショートさせる。コールステーションのコントロール LED がゆっくりと点滅し始めます。呼出局は 2 分間、設置モードになります。S4,2 を初期位置（オフ）に戻します。
3. 2 分以内にノブを回すと、本体の赤い緊急停止ボタンが再び解除されます。
4. コールステーションのコントロール LED の点滅が止まれば、本機との接続が完了します。
5. システムをテストして、ペアリングが正しく完了したことを確認します。そうでない場合は、手順 1~5 を繰り返します。複数のコールステーションを受信機にペアリングする場合は、手順 2~6 を繰り返します。
6. リフトの側面にあるオン/オフスイッチをオンにしてください。



送信機と受信機のリセット方法

コールステーションをリセットして、特定のマシンに接続しないようにするには、以下の手順で行います：

ディップスイッチ S4,1 をオンにして、スイッチを押すか、金属物で（↑）または（↓）を接続します。コールステーションのコントロール LED が高速で点滅します。受信機とのペアリングが削除されました。ディップスイッチ S4,1 をオフに戻す。

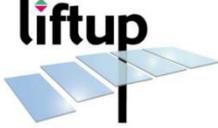
受信機のリセット方法

受信機の電源が入っている必要があります。コネクションボックス PCB の JP1-1 をショートさせてください。コントロール LED が急速に点滅し始めると、受信機がリセットされます。コントロール LED が素早く点滅しない場合は、受信機がペアリングされていないことを意味します。



15. 設置と引き渡し

このフォームは設置時に記入する必要があります。



Installation and handover

The form below shall be filled out upon installation.

Customer:	Product:
Address:	Product Type No.:
Postcode:	Serial No.:
Telephone No.:	Installation date:
Client acceptance of installation:	Installed by:

Checklist:

No	Description	Checked	Any comments
1	Testing together with the client	<input type="checkbox"/>	
2	Emergency stop	<input type="checkbox"/>	
3	Safety mode	<input type="checkbox"/>	
4	Review of the manual	<input type="checkbox"/>	
5	Pressure plate incl. alarm	<input type="checkbox"/>	
6	Overload	<input type="checkbox"/>	
7	Ramp/door function (switch)	<input type="checkbox"/>	
8	230V tp the control unit (do not switch off)	<input type="checkbox"/>	
9	Any change of battery in remote control	<input type="checkbox"/>	
10	Outdoor: instruction of treatment (no salt etc)	<input type="checkbox"/>	
11	Any pairing of wireless call stations / remote controls	<input type="checkbox"/>	
12		<input type="checkbox"/>	
13		<input type="checkbox"/>	
14		<input type="checkbox"/>	

Liftup A/S | Hagensvej 21 | DK-9530 Støvring | Denmark | T: +45 96 86 30 20 | M: support@liftup.dk | www.liftup.dk





16. メンテナンスチェックリスト

セクション 13 に記載されている一般的なメンテナンスに加えて、メーカーとしては、6 ヶ月ごとに認定*サービス技術者による点検を実施することを推奨します。製品を購入された販売店がこのサービスを提供していますが、他のサービス業者を利用する場合は、リフトの所有者の責任において、選択したサービス技術者がその製品のトレーニングを受けていることを確認してください。参照：
<https://www.liftup.dk/en/distributors/>。

点検を行わなかったり、誤った点検を行ったりすると、人身事故につながる恐れがありますので、安全のためにこれらの点検を行うことが非常に重要です。



重要！ リフトの整備を行う前には、必ず緊急停止装置を作動させてください。意図しない運転を防ぐためです。サービス技術者は、サービスを開始する前に、緊急停止装置が作動していることを確認する責任があります。

注：本機はバッテリーバックアップを備えているため、110～240V の電源を切るだけでは不十分です。

下記のサービスレポートは、サービスごとに記入する必要があります。サービス契約を締結した会社に提出します。

年間の推奨サービスチェック回数：

	野外	屋内
プライベート	2	1
公共	4	2

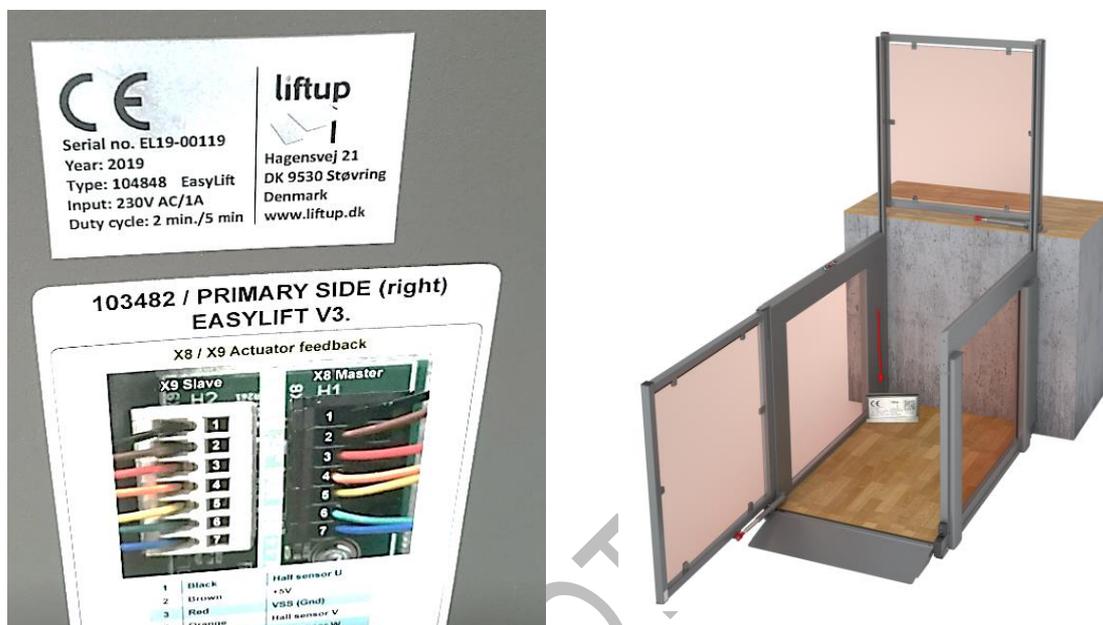
現地の法律について

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方



17. オンラインサービスログ (デンマークのみ)

スマートフォンやタブレットなどで、QRコードを読み取ることでアクセス出来ます。QRコードは、後部左手のレール（下段）の下部にあります。



このセクション 3 には、この特定のリフトのシリアル番号が記載された CE ステッカーと、リフトのオンラインサービスログに直接アクセス出来る QR コードが挿入されています。QR コードを読み取ると、リフトのオンラインサービスログに直接アクセスし、新しいログが作成されます。各フィールドに記入していただき、サービス技術者/エンジニア/管理権限者が各訪問後に電子的な承認を入力してください。

liftup Equipment Service Log

Equipment details
 Serial no.: F319-00010
 Production year: 2019
 Equipment type: 103141 Flestep-V2

Links to more information
[Link til produktiden](#)

Equipment log
 These are the recorded service log entries for the equipment.

Log no. / L.	Log entry date	Created by	Log entry text	Comments	Signature
1	15/01/2019	PB	Installation/opstilling af lift	Liften er installeret. Intet øvrigt at bemærke ifm. installationen.	PB
2	16/01/2019	Peter Pedersen	Opstillingskontrol	Liften er opstillingskontrolleret iht. bekendtgørelsen, uden bemærkninger. Lifte må herefter tages i anvendelse	PP
3	13/02/2020	Hans Jensen	Årlig eftersyn	Årlig eftersyn gennemført iht. serviceaftale med Liftup A/S. Intet øvrigt at bemærke.	HJ

[Add log entry](#)

1. Heri kan du se udstyrsdetaljer såsom: serienummer, produktionsår med mere.

2. Klik på linket for at se en video om produktet.

3. Dette er selve "log-bogen" for udstyret. Denne skal opdateres af serviceingeniøren ved hvert service besøg.

4. Loggen skal udfyldes med dato, navn, en spændte log entry tekst samt relevante kommentarer. Til slut underskrives loggen elektronisk.



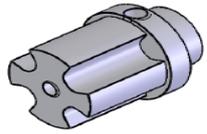
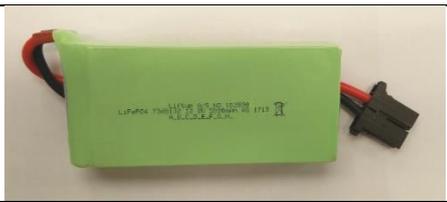
18. スペアパーツとアクセサリ

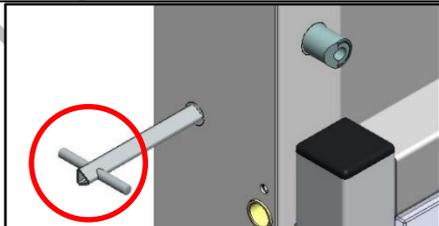
純正のスペアパーツのみを使用することが重要です。部品の交換は、資格を持ったサービス技術者のみが行うことができます。

純正品以外のスペアパーツを使用すると、工場保証が無効になる場合があります。さらに、製品の安全性が損なわれ、人の安全に危険を及ぼす可能性があります。

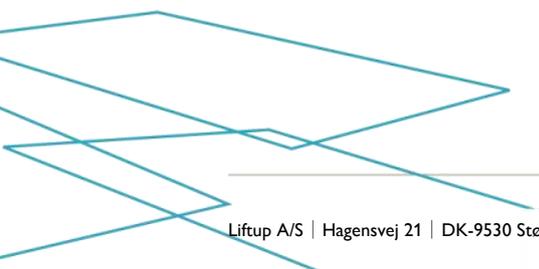
*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

Article No.	Description	Illustration
100336	DC motor for Ramp	
100338	Micro Switch - Safety system - V4L IP67	
104834	Emergency Stop Button	
102744	Motor for Safety Barrier	
102759	POM guide for stairs/wall profile	
102766	Brush for wall profile	
102768	Spring for safety barrier contact	
100579	Plug for door, 40x40 mm	
101139	Timing belt for vertical barrier (m)	
101326 103679	Actuator for door EasyLift 800/900 (grey) EasyLift 1100 (grey)	

Article No.	Description	Illustration
102355 104179	Actuator for door EasyLift 800/900 (black) EasyLift 1100 (black)	
101558	Cable for vertical barrier/ call station	
103933	Remote control – transmitter unit (accessory)	
101951	Repair spray, Colour Akzo 900 sable	
103482	Control Board for FS2, ELV3	
102556	Cam for ramp lock FS2 & ELV3	
102557	Brass bracket for ramp lock FS2 & ELV3	
103738 102726	Print for connection board 2,4 GHz Print for connection board 868 MHz FSV2/ELV3	
102773	Friction clutch for ramp lock	
102890	Battery 12V 5Ah LiFePo4 Raizer / FS2 / EL	

Article No.	Description	Illustration
103080	Power supply unit 36 V	
103182	Actuator Complete, motor EasyLift V3	
103152	Spring for ramp - Friction clutch	
103333	Programming Cable USB A to B EasyLift	
101589	Micro Switch - Safety System Forced Break IP60 (Easylift 800/900/1100)	
103691	Triangular key for emergency opening of EasyLift 1100 door	

OBSOLETE - NOT USED





19. 解体

リフトを適切に分解して別の機器に再利用するためには、正規のサービス技術者*に依頼することをお勧めします。分解については、販売店にご相談ください。

建物から取り外されたときに、リフトが転倒したり、意図せずに傾いたりする危険性があることにご注意ください。

*Liftup 社の製品・サービス研修を受けた方

20. 廃棄

所有者の責任において、その時点で有効な規制に従って製品を廃棄することが出来ます。

特に、コントロールユニットとリモコンに電池が入っていることに注意してください。これらの電池は、別々に廃棄する必要があります。

バッテリーをゴミ箱に捨てないでください。バッテリーを廃棄する際には、地域の規則や規制を遵守する必要があります。

廃棄については、販売店にご相談ください。

21. 苦情を申し立てる権利

苦情を申し立てる権利は、その時々により有効な苦情を申し立てる権利に関する規則によってカバーされます。詳細については、当社ウェブサイト (<https://www.liftup.dk/en/about-liftup/general-conditions/>) に掲載されている販売及び配送に関する規約をご参照ください。

注：

所定のサービスチェックが行われなかった場合、苦情を申し立てる権利が失効する可能性があります。決められたサービス間隔を守らないと、製品の安全性に重大な影響を及ぼす可能性があります。製品が常に所定のサービス検査に準拠していることは、お客様の責任です。AT 省令 1109 条 14 項参照。

新しい EasyLift の使用をお楽しみください！

いつもありがとうございます。

Liftup A/S

lifting people

"Aesthetics, design and safety is essential in everything we do. We are developing dignified aids, not machines."

LIFTUP A/S
Hagensvej 21
DK-9530 Støvring
Denmark

+45 9686 3020
support@liftup.dk
www.liftup.dk

